

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月20日現在

機関番号：32710

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009年度～2011年度

課題番号：21520212

研究課題名（和文）有職故実文献による源氏物語注釈のための基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental studies on the records of old customs and manners for explanatory approach to GENJIMONOGATARI

研究代表者

高田 信敬（TAKADA NOBUTAKA）

鶴見大学・文学部・教授

研究者番号：00124199

研究成果の概要（和文）：研究は、以下の項目を軸に実施した。（1）有職故実文献の収集と撮影およびそれに基づく事項データ作成、（2）書誌学的事項を中心とする関連文献の基礎調査、（3）源氏物語古注釈からの有職故実項目抽出と一覧化、（4）古記録の分析および有職故実関連項目抽出と索引化の検討の4項目である。これらを中心課題として随時討議を重ね、その成果としては、古典籍整備（補修を含む）と撮影（個人蔵の資料を含む）・書誌事項データの蓄積・関連文献基礎調査と個別伝本の解明・古記録所載文献索引用のための基礎資料作成・古注釈有職故実項目一覧（試行版）作成と、雑誌論文3点の公刊等であり、その詳細は下記に述べる通りである。

研究成果の概要（英文）： The fundamental studies have been developed according to 4 courses.(1)To accumulate the records of old customs and manners, and to photograph for examining them.(2)To investigate the relevant matters.(3)To extract the items from the old explanatory notes on GENJIMONOGATARI.(4)To analysis the old records in Chinese characters and to extract the items.

We have discussed whenever necessary and carried out the studies. As a result, the following has been achieved.

Accumulation and repairing and taking photographs of the ancient books(including private collection).

Storage of the bibliographical knowledge.

Inquiry into the relevant literature and elucidation of the specific text.

Attempt to compile the concordance to the titles of books quoted in old records.

List of the relevant words in the old explanatory notes(trial edition).

Publish of 3 monographs.

They will be mentioned fully in the pages that follow.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学 日本文学

キーワード：古代文学・源氏物語・注釈・有職故実・古記録・古典籍・書誌

### 1. 研究開始当初の背景

『源氏物語』は、1000年近い研究の歴史を持つが、作品理解に必須なものとして、有職故実領域の知識がある。とりわけ官職位階故実の分野と服飾故実の分野は、不可欠のものとして、その重要性は周知のところである。

しかし、南北朝から江戸期までにこの方面の研究が積み上げられたものの、それ以降学問的水準はあまり向上していない。和田英松・山田孝雄等の、国文・国史を兼ねた碩学を例外として、近代特に戦後は見るべき研究に乏しく、江戸期の公卿学・故実学より数段劣った状況にあると言えよう。

そのため、初歩的な問題が読解の障害となったり、研究者相互で無用の誤解を生じたりすることも少なくない。江戸期に相当程度流布した版本の類すら、現在の研究者の視野にはあまり入らず、写本に至っては手つかずのものが多い。さらに、有職故実文献の重要性が各所蔵者には十分には認識されておらず、補完・修補の面で喫緊の課題があるので、この点にも配慮が必要である。このような研究状況ゆえに、関連文献の実地調査・整備をはじめ、最も基本的な段階から研究を積み上げる必要がある。当該研究開始時点の学的背景は以上の通りである。

### 2. 研究の目的

作品を論ずる前提として、対象の適切な理解が不可欠であることは言うまでもない。そして理解の確固たる基盤を作るためには、基礎作業としての注釈・注解が必要となる。

しかし注釈・注解のなかでも、有職故実領域は現在最も立ち後れの目立つところであって、今日の研究は江戸期の水準から相当程度低下した状況にあり、基本資料すら十分には整備されていない。当該研究では、原本・原資料に即した基礎文献の徹底調査と、有職故実文献の活用による作品注解の基盤整備の2点を主目的とするものである。

### 3. 研究の方法

有職故実関連分野は、その有効性・重要性が認識されているにもかかわらず、現在ほとんど進展を見ていない研究領域である。基本資料すら十分には整備されておらず、未翻刻の典籍が非常に多く、既に紹介のある文献であっても、詳細な説明や新しい分析に乏しい。したがって、可能な限り資料を収集・整備し、各地に分散所蔵されている古典籍については、最も基礎的な書誌調査から出発しなければならないのである。

当該研究代表者・連携研究者は書誌調査の経験と研究実績を持ち、原本・原資料から直

接情報をくみ上げることが可能であり、これが方法上の特色の一つとなっている。また作品研究を行うに際し、思弁や図式化、あるいは印象批評に頼るのではなく、有職故実文献の読解と分析および用例収集を通じて、あくまでも実証的・帰納的に対象へ迫るところが、もう一つの方法的特色である。

なお、有職故実が多岐広汎な分野に及ぶので、『源氏物語』研究にとってより必要度が高いと判断される官職位階と服飾を重点的に検討し、あわせて考証の基礎となる典籍の名称・書写記録等も検討する。

### 4. 研究成果

研究は、次の4項目を軸に実施し、以下の成果を得た。

(1) 有職故実文献の収集と撮影およびそれに基づく事項データ作成

① 有職故実文献として『百官略』『桃花薬葉』『日中行事略解』『鋸抄』『三中口伝』『官位俗訓』『装束のしるべ』の古典籍を購入、必要な修補を加え、基礎事項の調査を行った。『源氏物語』に直接関わる購入資料としては、『花鳥余情』『源氏物語抄』等がある。

これらの内『花鳥余情』と『桃花薬葉』は、「(3) 源氏物語古注釈からの有職故実項目抽出と一覧化」と密接な関わりを持ち、あわせて多面的な考察が可能となる。

② 『源氏物語』関連古筆切15点を含む未紹介個人蔵資料の撮影と、各資料の略解題を作成した。その細目は以下の通りである。

伝後京極良経筆源氏物語総角断簡

伝一条教房筆源氏物語若菜上断簡

伝藤原為家筆源氏物語須磨断簡

今川了俊筆源氏物語夕顔伊予切

伝橋本公夏筆源氏物語手習断簡

伝冷泉為相筆源氏物語古系図断簡

伝堯仁親王筆源氏物語古系図断簡

伝花山院師賢筆源氏物語歌集松尾切

伝冷泉為相筆紫明抄六半切

伝細川幽斎筆花鳥余情断簡

伝石井了派筆弄花抄断簡

伝二条為定筆源氏物語梗概断簡

伝河田玄清筆源氏小鏡断簡

伝飛鳥井頼孝筆源氏小鏡断簡

伝二条為重筆源氏歌詞少々断簡

古筆切以外の典籍としては、小堀軻音旧蔵源氏物語梗概（源氏小鏡の一種、卷子本）1点がある。

いくつか調査の結果を簡略に例示すると、伝後京極良経筆源氏物語総角断簡以下の本文資料は、いずれも河内本系統に

分類可能なものと考えられ、書写年代の古さから見て珍重すべき古筆切である。次に、伝河田玄清筆源氏小鏡断簡は古系図を引用して梗概を述べる非常に珍しい方法を採用しており、室町期の梗概書述作法が理解出来る点からも、注目される資料である。また今川了俊筆伊予切は、筆者が特定できる希な事例であることに加え、大型冊子本一面分をそのまま現在に伝えており、書誌学的にも貴重である。さらに、伝冷泉為相筆六半切は『紫明抄』を書写内容とし、当該古注釈の最も早い例として意味が大きい。

以上の古筆資料群は、学界にほとんど知られていないものであり、早い書写時期の河内本本文資料や、古系図・梗概書をはじめとする享受資料など、学術的価値の高い断簡ばかりであるので、今後研究の進展に大きく貢献することが期待される。

- ③ 『天皇即位記』『御昇壇記』（大阪府立中之島図書館）の書影も収集した。
- ④ 『源氏物語』の登場人物呼称は、古記録の人名記載法と一定程度の関連があり、その理解のために、『三中口伝』『官位俗訓』等の官職故実書が有益であることを確認した。

#### (2) 書誌学的事項を中心とする関連文献の基礎調査

各地の特殊文庫に所蔵される有職故実文献および『源氏物語』関連典籍の現物調査を行い、基礎データを収集・蓄積した結果、この項目では想定以上の達成を示せた。以下に、特筆すべきものを掲げる。

- ① 壺井義知『源氏男女装束抄』（大阪府立中之島図書館）は従来全く報告されていない版種であることが判明した。すなわち当該典籍は、宗碩花押模刻部分を持たないところに特徴があり、諸版中最も早い時期の刊行と推される。これは、蔵書印その他から判断して、著者壺井自身の手控え本である可能性が高く、成立事情の解明に不可欠の資料と考えられる。注釈史研究上に新たな知見を加える伝本である。
- ② 他機関所蔵の『百官略』と購入した『百官略』を比較調査した結果、後者は慶長古活字版と密接に関わりながら、それに先行するかと思われる別種の資料であることが判明した。このような官名一覧表は、初歩的な有職故実知識伝授や書道手本としても制作・利用され、文化史的・教育史的に興味深いものである。なお『百官略』（神宮文庫）は普通本に分類されているが、希少な古活字版であると認められる。
- ③ 未翻刻資料ながら、平安時代文学読解に

有効性の高い『官職浮説或問』（神宮文庫）は、国書総目録に著録されておらず、これまで注目を集めることも希であったが、著者の師である四辻公韶と思われる人物の跋文を持ち、壺井義知自筆原本か、もしくはそれに近い重要写本と推定される。今後の研究に際しては、当該伝本を基準とすべきであろう。

- ④ 岩瀬文庫および大阪府立中之島図書館の資料によって、編者不明の古系図として分類されていた著述につき、尾張藩の国学者森嘉基の手になるものであることが確認された。森の著作は、出版された場合でも、ごく少数の刊行に終わったと見られ、1点ごとの資料性確認が必要である。
- ⑤ 『花鳥余情註・河海抄註・装束抄』（天理図書館）は、九条政基という室町期貴族最上層の人物が書写し、その家に伝来したものであり、享受史上重要な文献であること、および古注釈の本文研究と読解に新見をもたらし、室町期の言語研究にも貢献することを明らかにした。
- ⑥ これまで、黒沢翁満『源氏百人一首』は1つの版を繰り返し使用するのみで、異版がないとされてきたが、初刻本の他に、図像の上部だけを改刻した別版（個人蔵）を知り得た。さらに現存諸本の全てには刊記の文言に問題があり、刊行年次と正確に対応していないことも明らかとなった。『源氏百人一首』に、少なくとも2種類の伝本が存在することは、大きな発見である。
- ⑦ 大部の部類書『群記類鑑』（蓬左文庫）が古記録研究上非常に有益な資料であり、当該写本に使われた「兼」字の末尾欠画により、光格天皇の時代以降の文字用法であると判定、書写年代を具体的に絞り込めた。
- ⑧ 岩瀬文庫の柳原家旧蔵資料群が、宮内庁書陵部の柳原家記録を補完するものであり、『五位蔵人拝賀部類』等の柳原紀光自筆原本は、他に所見のない孤本であることを確かめ得た。柳原家は、熱心な故実研究者を何人も輩出しているため、その書写資料や著述は、官職故実資料としても、非常に価値が高い。
- ⑨ 孤本『女官衣服抄』（皇學館文庫）の祖本が国学者速水常房所蔵にかかるものであることを明らかにし、系譜関係を示し得た。また、当該典籍が『洞院二十卷部類』と関連を持つ重要な服飾故実資料であることを確認した。
- ⑩ 『公事根源階梯』（京都府立総合資料館）は著者滋野井公麗の自筆原本であり、重要性のきわめて高いものであることを確かめた。その書写形式から推測すると、

同じ著者の『禁秘抄階梯』と姉妹編をなす刊行物をめざしたものの、出版には至らなかったと考えられる。そして、当該典籍とごく近い関係の転写本が鶴舞中央図書館河村文庫に所蔵されることも確かめ得た。

- ⑪ 『温故知新』(京都府立総合資料館)は、室町期の故実文献として成立時点の姿をほとんど変えず伝来した典籍であり、古記録を大量に引用し、また両面書写の結び綴じという書誌学的に珍しい装丁である点で、価値が高いことを明らかにした。中院家に縁の深い故実書であることも、重要である。
- ⑫ 古系図のうち、他には見えない登場人物が系譜化される巢守三位本は、散佚した物語の一部分を伝えている可能性から、しばしば話題に上る。しかし個別伝本に即した分析は少ないので、『源氏物語系図』(鶴見大学図書館)を実物に即して検討した結果、ある一本を土台として増補・合成された痕跡を持つと推定するに至った。
- ⑬ 『源氏物語』帚木に見える「非参議の四位」に関し、『多々良問答』は有益な説を載せる。しかし同じく三条西実隆が大内義隆に与えた『官位不審問答』(鶴舞中央図書館)は、一見『多々良問答』を抄出した本のようにありながら、相互に複雑な出入りを持ち、さらに個別の検討が必要であると判明した。
- ⑭ 九条家旧蔵『源氏詞の解』(天理図書館)は他に所見のない文献であり、江戸期になってからの成立とするのが通説であるけれども、簡略な語釈を軸とする初歩的な著述ながら、中世に遡りうる珍しい古注釈であると判断された。
- ⑮ 『光源氏物語不載系図無向後人』(天理図書館)は、系譜化しえない登場人物の一覧であり、大規模な源氏物語系図から、その末尾を独立させて一書としたものである。このような源氏物語系図の部分的利用や抄出享受方法は、室町期～江戸初期にかけてしばしば見られ、関連の類似資料が、東海大学図書館桃園文庫にも蔵されていることを確認した。
- ⑯ 『源氏物語古系図』(神宮文庫)は、その特異な系譜構成と書写年代の古さから、研究者の注目を集める資料であり、既に紹介論文・翻刻も備わっている。しかし、卷子本特有の裏書註の複雑さに加え、修補の繰り返しによる難読箇所が多さもあって、正確な判読は困難をきわめ、既存の報告は見直し・再検討が必要であると認識された。

#### (3) 源氏物語古注釈からの有職故実項目抽

#### 出と一覧化

『源氏釈』以下江戸期の注釈までを個別に検討し、有職故実関連項目の豊富な『花鳥余情』を選んで、その中から服飾に関わる注釈事項を抜き出した。さらに項目番号・巻別注釈総数等を付し、一覧可能な形式にまとめ、試行版とした。著者一条兼良の他の著作、たとえば衣服の説明が多い『桃花薬葉』との比較や、『細流抄』以下の古注釈への継承関係等につき、作業を進めるための基礎となるものである。

#### (4) 古記録の分析および有職故実関連項目抽出と索引化の検討

- ① 古記録中には、散佚して現在に伝わっていない重要な典籍が逸文として残ったり、享受の具体相を細かく書き留めていたりする。それらは、考証の材料として非常に価値が高い。しかしながら古記録本文の十全な理解は困難であり、関連項目の抽出だけでも不十分な段階にある。また古記録は、有職故実文献の伝来や『源氏物語』の書写・享受を具体的に知る上でも重要なので、原文の読解と分析を重ね、典籍索引の基礎となるデータの蓄積に努めた。
- ② 室町期の古記録に見える有職故実文献に関しては、『鏝抄』『羽林秘抄』『仮名日中行事』『弘安節礼』『禁秘抄』を例として本文伝来史の略述を試みた。
- ③ テストケースとして、『十輪院内府記』・『本源自照院記』から典籍を含む文化事象を抜き出した。『十輪院内府記』に関しては一応の原稿化を行った。また、『室町殿和歌打聞』の復元材料を古記録中から収集した。

他に、雑誌論文3点がある。さらに、直接的成果ではないので詳記しなかったが、高田信敬『源氏物語考証稿』(2010年 武蔵野書院)・今野鈴代『源氏物語 表現の基層』(2011年 笠間書院)・中川博夫『大式高遠集注釈』(2010年 貴重本刊行会)等、研究代表者・連携研究者の著書において、部分的に当該研究の成果が取り込まれている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- 1 高田 信敬  
春のはじめの梅の花  
—『梁塵秘抄口伝集』巻十贅註—  
『国文鶴見』46 査読なし 2012年  
15～23頁
- 2 高田 信敬

中院通秀文事一覧稿

『国文鶴見』45 査読なし 2011年  
58～116頁

3 今野 鈴代

もう一人の源氏—允明の場合—

『国語国文』78 査読あり 2010年  
22～37頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高田 信敬 (タカダ ノブタカ)

研究者番号：00124199

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

今野 鈴代 (KONNO SUZUYO)

鶴見大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：30535109

佐々木 孝浩 (SASAKI TAKAHIRO)

慶應義塾大学・斯道文庫・教授

研究者番号：20225874

中川 博夫 (NAKAGAWA HIROO)

鶴見大学・文学部・教授

研究者番号：70211414